

## 茎葉処理型除草剤を核とした大豆作における難防除雑草の総合的防除

日本の大豆単収は世界の平均と比較しても低位かつ不安定であり、雑草害は大豆多収阻害要因の一つです。特に近年急速にまん延した外来雑草である帰化アサガオ類等の広葉の難防除雑草は既存の除草技術では防除が困難であり、有効な除草体系の構築が喫緊の課題でした。そこで、農研機構は全国の大学や公設試等と連携し、新規茎葉処理型除草剤を核とした省力的な難防除雑草防除体系を草種別に構築・実証しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

- 大豆狭畦栽培（条間 30cm）の帰化アサガオ類に対して、新規茎葉処理型除草剤であるアタックショット乳剤またはパワーガイザー液剤を大豆 1～2 葉期に、既登録の大豆バサグラン液剤を大豆 4 葉期に散布することで残草量は慣行除草（土壌処理型除草剤のみ）比最大 98%抑制されました。現地実証試験では大豆収量が 2.6 倍増加し、手取り除草時間が削減されたことで収益性の改善効果も認められました。
- 同様に大豆作の難防除雑草であるホオズキ類、イヌホオズキ類、ツユクサ類、アレチウリについても防除体系を構築し、現地圃場にて除草効果および収益改善効果を確認しました。



< 実証防除体系A-1（中国地方・6月下旬播種・条間30cmの狭畦栽培） >

時期	大豆 (サチユタカ)	帰化 アサガオ類	実証体系 (ポイントとなる技術は赤字)	タイミング (目安)
6月 下	狭畦播種	出芽始	←播種後土壌処理型除草剤 エコトップP乳剤* (600ml/10a)	播種後出芽前
7月 中	2葉期	3~4葉期	←茎葉処理型除草剤（茎葉処理①） アタックショット乳剤** (50ml/10a)	播種後約3週間
7月 下	4葉期	後発子葉	←茎葉処理型除草剤（茎葉処理②） 大豆バサグラン液剤** (150ml/10a)	茎葉処理①の約7日後
8月 上	開花期		*帰化アサガオ類には効果が劣りますが、一般的な雑草の防除には必要です。 **登録の範囲で高濃度で使用します。	

図 大豆ほ場でまん延する帰化アサガオ類（左図）、帰化アサガオ類の実証防除体系の一例（右図；診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援マニュアルより引用）

### ☆ 活用面での留意点

- 難防除雑草に対する茎葉処理型除草剤の散布適期は短いため、除草剤の薬効を最大限発揮するには適期防除が重要になります。また、大豆作で使用可能な広葉用の茎葉処理型除草剤は、気候や大豆品種によって初期薬害の程度が異なります。
- 本技術に関して、詳細は「診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援マニュアル」（[https://www.naro.go.jp/project/research\\_activities/laboratory/carc/139073.html](https://www.naro.go.jp/project/research_activities/laboratory/carc/139073.html)）をご覧ください。

（農研機構 植物防疫研究部門 雑草防除研究領域 浅見秀則）